



第1827回 例会

2011-12年度RI会長:カルヤン・パネルジー
 第2640地区ガバナー:大澤 徳平
 創立:昭和49年5月15日
 会長:上原俊宏
 幹事:佐田一三
 会報:榎本真弓



VOL. 38 No. 31

2012年 3月7日 (水)

事務所:田辺市下屋敷町81-10
 きぐに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会:毎週水曜日 12:30~

司会者 上原 俊宏会長

唱歌

山本 亘

「君が代」 「我等の生業」



出席報告

会員数	義務免除	欠席者数	本日出席率
47名	2名	12名	73.33%
2月22日 修正出席率 86.36%			

ニコニコ箱

(敬称略)

◇内卓頑張ってください。

愛須、平野、片井、木村、小山、楠本
 森本、中川、岡本、坂本、谷中、上原
 山本、吉本

◇内卓頑張ります。今後とも協力をお願いします。
 竹村

◇誕生日を迎えました。イヤになっちゃうよ。

浦地

◇ラビームチーム対抗優勝しました。 武田

◇親切な言葉は、春の日差しのように暖かだ。 藍畑

◇昨日、64歳と3ヵ月にて大流星群を見ました。
 真っ赤に光って僕の上の山へ消えていきました。

佐田

◇結婚記念日 丸山(博)

◇本人誕生日

橋本、稗田、北村、浦地、山本

◇奥様誕生日

後藤

◇お花頂きます。

小倉

会長報告の前に

昭和23年に公布された「国民の祝日に関する法律」によると春分の日は「自然をたたえ、生物を慈しむ」事を趣旨とした祝日とされています。かつての春期皇霊祭のことです。この日は昼と夜の時間が同じになるという特徴があります。通常国立天文台が時刻を計算し「暦象年表」という小冊子上で報告します。是を受けて春分の日の日には閣議で決定されるのです。つまり通常2月の初めの平日に官報で翌年の春分の日が発表される仕組みになっています。具体的に申しますと、今年の春分の日は昨年2月始めに閣議決定の後、形として印刷されたものであります。

官報発表後、年末までは新しいカレンダーは特に作成されません。つまり昨年今の頃、当クラブの休日を制定するに当たり参考となったのは昨年のカレンダーであり、それには春分の日は3月21日と明記されておりました。言い訳ですが・・・。
 ところが通常、閏年の春分は1日早く、3月20日になるというのが定説であったのを失念しておりました。**お詫びを申し上げ、3月21日**を通常の例会として開催いたします。ご了承賜りたく。

会長報告

- 本日のプログラムは内卓です。国際奉仕委員長 竹村英一君と副委員長の稗田智則君、委員の北村圭司君です。後ほど宜しくお願い致します。
- 2月25日(土)に田辺はまゆうRCの創立20周年記念式典が開催され、佐田幹事と私、会長が出席して参りました。そのお礼状が届いております。
- 2月29日(水)田辺市長へ社会奉仕委員会より、新田辺市立図書館「たなべる」に寄贈した車いす2台の目録を贈呈して参りました。
- 3月3日(土)米山学友小委員会地区委員である坂本正人君が、米山奨学修了証授与式に出席してこられました。ご苦労様でした。
- 3月10日(土)本宮プロバスクラブ創立2周年大会に第35代会長 栗山侑三君が出席して下さいます。ご苦労様ですが宜しくお願い致します。
- 3月11日(日)PETSが開催されます。会長エレクトの橋本隆君、ご苦労様ですが宜しくお願い致します。

■3月21日(水)の例会は休会と予定しておりましたが、理事会の承認を得て、開催することとなりました。宜しくお願い致します。

幹事報告

■例会日時変更

◎新宮RC 3月14日(水)→3月16日(金)13:30～
場所:熊野川町田長
「熊野川」記念碑復興除幕式

■メイクアップ

◎3月3日(土)米山奨学生修了証授与式に出席
坂本正人君

■回覧

- ・週報「白浜RC」「那智勝浦RC」
- ・「シーカ83号」「バギオだより29号」
- ・R財団より寄付1月度迄の集計表
- ・ガバナー事務所より「記録誌送付のご案内」と「熊野地域を襲った台風12号災害記録」「ロータリーの友2月号」地区だより「地区大会のご案内」(4月7日・8日)と参加申込表多数の参加申し込みをお願いします。
- ・3月28日(水)移動例会のご案内(出欠表)
- ・4月11日(水)移動例会のご案内(出欠表)
- ・社会奉仕委員会より「識字率向上運動協賛のお願い」

■掲示

- ・2月29日(水)例会後、社会奉仕委員から田辺市長に、新市立図書館「たなべる」に寄贈の車いす2台の目録贈呈の記事[紀伊民報]

■連絡

- ・「識字率向上運動協賛のお願い」の募金箱をSAA・親睦の受付に置いています。ご協力よろしくお願い致します。

委員会報告

■西谷次彦君

堀さんの船が名古屋沖の浅瀬にて座礁し沈没し、その処理に奔走しているそうです。乗組員は無事で空荷だったのが幸いしたそうです。



■社会奉仕委員会委員長代理 森本修至君

市立図書館に車椅子を寄付しました。



■職業奉仕委員会委員長

藍畑春雄君

4月11日中田食品へ移動例会を行います。多数の参加をお願いします。



■プログラム委員長

吉本正美君

稲むらの火の館長のお話が来週の例会でありますので、全員出席をお願いします。



■地区米山奨学委員会

坂本正人君

米山奨学生修了証授与式の様子を報告。



本日のプログラム

～ 国際奉仕委員会よる会員卓話 ～

■国際奉仕委員長 竹村英一君



ロータリーで、最初に国際奉仕に類する活動が行われたのは、1914年、第一次世界大戦の頃からと言われ、アメリカからヨーロッパに出兵したロータリアンの子弟を、イギリスのロータリアン家庭がホストをしたり、アメリカ、イギリス、アイルランド、カナダのクラブによって、ヨーロッパ各地で避難民への物資補給や、傷病兵の慰問や、終戦で復員してくる軍人に対するボランティア活動などが行われました。

1921年にロータリーの国際大会が始めてアメリカを離れて、スコットランドのエジンバラで開催されたことを記念して、「奉仕というロータリーの理想に結束した職業人の世界的友好による理解、善意および国際的平和の増進」という国際奉仕の考え方が発表され、それを綱領の中に加えるように提案されましたが、綱領改正そのものが否決されたため、翌年の、1922年ロスアンゼルス大会に持ち越され、その大会で綱領の第6項目として正式に明文化されました。その後度重なる綱領改正にも変更削除されることなく現在に至っています。

綱領の中でその目的が詳細に説明されているのは、職業奉仕と国際奉仕だけであり、さらに綱領の中で謳

われている国際奉仕の目的は、現在我々が日常的に行っている、WCSに代表されるような人道主義に基づく援助活動とは大きくかけ離れた活動であることを、理解しておく必要があります。

金銭や物資やマンパワーで経済的に恵まれない途上国を援助しようという発想は、1960年代の初頭から起こってきた、いわば派生的なものであり、ロータリーの国際奉仕の基幹となる思想は、国家、思想、宗教などの要素が複雑に入り交じって、現実には一つとはいえない世界を、ロータリアンの Fellowship に基づいた相互理解によって一つのものにして、恒久の世界平和を目指そうとするところにあるのです。

その観点から活動を見直せば、現在の国際奉仕のプログラムの中で最も大切なものは、ロータリー友情交換、国際青少年交換、ロータリー・フェローシップ、地域大会・国際大会参加、外国クラブの例会参加、友好・姉妹クラブ締結等の活動であると言えます。

<国際奉仕におけるロータリーの基本方針>

ロータリーの国際奉仕の目指していることは、奉仕の第四部門に表現されている：すなわち、「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進する」

自由、正義、真実、宣誓の神聖、人権尊重は、ロータリーの原則に本来備っているものであり、また、国際平和と秩序の維持および人類の発展に不可欠である。

ロータリアンの友情によって国際間の理解と親善を図り、それによって世界平和を目指すことが、国際奉仕の所期の目的であったことは、[ロータリーの綱領]からも明らかです。従って、国際奉仕活動は、ロータリー友情交換、ロータリー・フェローシップ、国際青少年交換、GSEのような各種の交換事業からスタートしたという歴史的経過があります。

しかし、1960年代に入ってから、開発途上国における飢餓や貧困や疾病などの問題がクローズアップされ、そのような問題によって地域紛争が起り、結果として世界平和を阻害するという考え方から、これらの問題に対処する人道的な援助活動を国際奉仕に含めることになりました。

■国際奉仕委員 北村圭司君



《 国際奉仕に関して 》

私は、『国際奉仕』に関して、事務局より本をお借りして少しだけ読みましたが、今一、ロータリークラブの『国際奉仕』を理解出来ておりません。ただ、『米山----』とも横つなかりが有る事は承知しております。

さて、私は、いつも通り、ストレートに話します。私の人生観には、当然、『奉仕の心』が有ります。ただ、『ロータリー』で、なければならぬとは全く考えておりません。『ロータリークラブ』にお世話には成っておりますので、『お付き合いレベル』を常にさせて頂いております。

私としましては、今、自分が関与している企業『INTERUSH』の社会奉仕を重要視しております。又、『ロータリー』の中で、日本国内の『ロータリー』の国際奉仕は、2011年度に限り、日本国内に全てを向けられても良いのではないかなあ、と考えております。

わが社は、レーサーの『佐藤琢磨』を広告塔にしております。2012年度も同じです。

彼が、東北震災援助の為に『With You Japan』を立ち上げましたので、それを会社としては応援しております。『With---』とは、彼の世界中の知り合いのレーサーがレースで使用したグッズをインターネットオークションにかけて、全額寄付するというシステムです。

又、個人的には、自分の親父から「将来、自分が豊かに成れば、社会還元を必ずする事」と言われてきましたので、20年近く続けております。

今回も、INTERUSHの会長・社長・リーダー達で、\$223,000(約2000万円)を赤十字に寄付させて頂きました。そして、お礼状のメールとビデオメッセージを頂きました。

私としまして、同じ年に、我が紀伊半島で大災害が起きるなどと考えても居りませんでした。現実には、ご存知の通りです。

災害の応援には、『①お金 ②労働 ③メンタル』と考えます。

①は、東北の関係も有り、個人的に少額では有りますが、寄付をさせて頂きました。

②は致しておりません。故に、1月に坂本氏がスライドを使って、応援の模様を見せて頂いた事に感動しました。

③ですが、私は、新年家族会で15分間の真面目なイベントをさせて頂きました。何かを残したかったのです。

そして、朗読を3点したのですが、最後の1点は、北村圭司が作文をしましたので、坂本明子氏の協力を得て、再度、北村宅で録音をして、知人のレコーディングスタジオを借りて、放送局が使っても良い音質で、DVDを作りました。このDVDを必要として頂ける田辺災害復興関係者にお渡しして、ボランティアで使ってもらおうと思っております。最後に5分間、そのDVDを見て頂いて、終わりとさせていただきます。

■国際奉仕委員 稗田智則君



日々是好日

新たな商売に挑戦し、何とか軌道に乗ったあと数年後には得意先となっていたアメリカ企業から訴えられることになってしまいました。

彼らの雇った外資系の弁護士達の屁理屈に辟易し、結局精神的にも金銭的に痛手を被りましたが、それもいい経験だったと思えるまで心は回復しました。

不思議なもので、今元気であれば、過去の出来事も変わるものですね。あれも神様が私にどこまで頑張れるか試したのかなと思えます。

考えてみれば、私の関わる商売だけではなく、この国の産業を取り巻く環境が、多かれ少なかれ既得権益の上にいることでどんどん体質として弱くなっているのだが、それで食っているから今更やめられないということでは、大企業も国も酷似しているんだなあ最近特に感じます。

当時、良かれと思って作ったルールや組織でもいざ時代に合わせてくれば、すべてをやりかえる勇気こそが一番肝心だと思いますが、できないわけですね。それには年齢の問題もありますね。いくつになっても一からやり直すということには勇気がいります。当然あと何年だと思ってやっている人はやりたくないし、守りに入ってしまうのが常でしょう。

大阪の橋本市長が、知事として役所に入ってみて、驚きの連続に怒りが沸いてくる毎日であったことは、想像に難くないです。頑張っしてほしいと思います。

先日、ジェームス スキナー氏の「略奪大国」という本を読んで、日本の現状がよく理解できました。ぜひ一読をお勧めしたいと思います。

分の流儀だ」と、Vシネマのミナミの帝王の中で竹内力が言うセリフがありますが、私はこれ以上法廷闘争してお互いの弁護士を儲けさせても馬鹿馬鹿しいと見切り、本業の商売できっちり何倍にもして返してもらおうと決心し、今着々と地固めしている最中ですが、そんな中でも、相手の屋台骨である商売に新規参入していかうとしてみると規制があって、結局進めようとするれば、役所に許認可をもらう為にくだらないお金を出さなければ進まない仕組みになっているのには本当に腹立たしいのですが、今は公務員改革を私がする立場にはないし、仕方がありません。

まず、裁判で争ったアメリカの企業(日本でガラスビーズを製造)に対抗して、道路の白線に入れるガラスビーズを販売していくことにしました。そこで中国のメーカーを使って製造させて、国内に入れてきて、対抗しようとしています。しかし、始めようとする、そこにも、経産省が入ってきて、JIS認証というハードルのために数百万円が必要といわれました。仕方がありません。

そして、このガラスビーズを使って福島県の友人がしている運送会社に貢献できないものかと考えています。郡山を拠点に関東以北に展開していこうということで、福島にも仕事が増えればと考えたわけです。

現在中国河北省のガラスビーズ工場に出資して、そこをJISの認定工場にしようとしています。これは経産省の下部組織の管轄です。

もうひとつ計画している商売はアメリカの許認可が必要なのです。どの国も同じような規則があり、そこにお金を払うしかないようにできています。これが強くなるほどその国の発展が阻害されているのではないのでしょうか。

そんなことで、来週はアメリカの軍の規格であるMIL規格というものを取得する為にサンアントニオというメキシコに近いところに出張することになりました。

これを取得しないと、品質がいくら良くてもボーイングなどの飛行機の整備の仕事に使う研磨材は販売ができないルールにされていて、基本的に日本の参入を歓迎しないと思いますが、今回日本企業でも取れるかもしれないということになりその交渉に行きます。

国際奉仕という点からいいますと、自らの職業を一生懸命やっていくことで、世の中に貢献するということになるわけで、多額の利益の何がしかを寄付というところまでいかないので、自分の仕事を通じて、貢献できればと思っています。



「お返しと仕返しはきっちりと倍にして返すのが自